

# 06 頭頸部内科

## 最適な治療の提供と治療開発を目指して

### 国立がん研究センター東病院頭頸部内科での研修の特徴

- ・国内随一の症例数による頭頸部がん薬物療法の系統的な習得
- ・国際共同試験への参加による最新の治療開発経験
- ・日本の頭頸部がん診療をリードする指導医からの直接指導
- ・頭頸部外科・放射線治療科・放射線診断科・リハビリ等のチーム医療



頭頸部内科は、わが国で初めて新設された頭頸部がんの薬物療法を担当する診療科です。研修では、頭頸部がんの薬物療法、さらに毒性の強い化学放射線療法の支持療法に精通することができます。頭頸部には発声・嚥下・咀嚼など生命活動にとって重要な機能があり、機能温存や容貌の変化など治療方針決定までのプロセスが非常に複雑ですが、他科との合同カンファレンスを通じて自分で治療方針が決定できるようになります。わが国での頭頸部がんの新薬開発の拠点になっており、数多くの治験（国際共同試験）に携わることができます。先端医療開発センターとの共同研究で、頭頸部がんのトランスレーショナル・リサーチもできます。自分が興味を持ったテーマの臨床研究のプロトコル作成を通じて、自分で臨床研究が実践できる人材に育てることを目指しています。これまで、内科医のみならず耳鼻咽喉科医の研修も受け入れており（これまで6名）、がん薬物療法専門医も取得しています。頭頸部癌の薬物療法に精通した医師は少ないため、稀少価値が高く、がん拠点病院からの人材派遣の要望も多数あります。

### 充実した研修内容

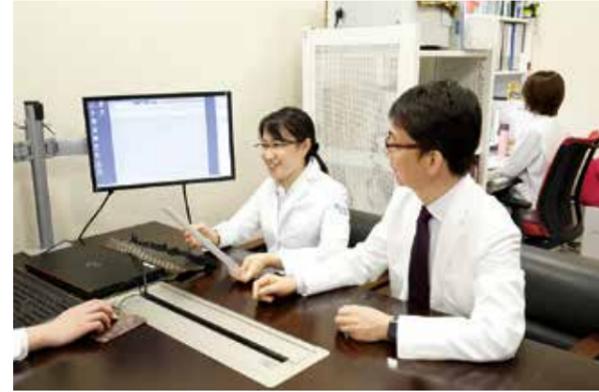
当科は国内でも随一の症例数を誇り、さまざまな症例を経験し、治療方法、副作用管理を含めた支持療法を学ぶことができます。また、ドラッグラグを解消するために積極的に国際共同治験にも参加しており、最新の治療開発（免疫チェックポイント阻害薬や光免疫療法など）を経験することができるのも大きな魅力です。特に、免疫チェックポイント阻害剤は局所進行癌の開発が進行しており、治験段階で経験できることは非常に意義があります。同時に、頭頸部がんの標準治療および緩和ケアを含めて学ぶことが出来ます。

	月	火	水	木	金
7:30		抄読会（英語）			
8:00	回診				
9:00	外来または病棟				
12:00	昼休み				
13:00	外来または病棟				
17:00	17:30 新患カンファレンス	17:00 頭頸部外科、放射線科、歯科との合同カンファレンス		17:30 勉強会	16:00 ワークカンファレンス

### 豊富な症例数とレジデント経験症例数

当科では年間約400例の新患者があり、経験できる頭頸部癌症例数は国内トップクラスです。数多くの頭頸部がん薬物療法を施行し、がん薬物療法専門医を取得するための修練を積むことができます。また、わが国の新薬開発拠点であるため、化学療法・免疫チェックポイント阻害薬・分子標的薬に至るまで、さまざまな治療開発の最前線を経験することが可能です。一方で、内科的研修のみならず、国内トップクラスの手術件数を誇る当院頭頸部外科での研修を受けることも可能です。

【H30年度症例数】	
導入化学療法→化学放射線療法	36件
化学放射線療法単独（治験除く）	55件
化学療法（治験除く）	36件
治験	23件
その他	272件



### レジデントの研究成果

#### 国際学会

- ・ Enokida T, et al. Cytokeratin 4 is a novel predictive marker in early stage(T1/2) oral tongue suamous cell carcinoma. ESMO 2016.2.
- ・ Ueda Y et al. Role of Cetuximab for Recurrent/Metastatic Nasopharyngeal Cancer. Multidiciplinary H&N Cancers Symposium 2018.

#### 論文

- ・ Enokida T, Nishikawa H.: Regulatory T cells, as a target in anticancer immunotherapy. Immunotherapy. 2017; 9:623
- ・ Enokida T, et al. Gemcitabine monotherapy in patients with heavily treated nasopharyngeal cancer: a case series. Int J Clin Oncol.2017;1152-8.
- ・ Enokida T et al. Gene expression profiling to predict recurrence of advanced squamous cell carcinoma of the tongue: discovery andexternal validation. Oncotarget. 2017;37:61786.
- ・ Enokida T et al. Incidence and risk factors of hypomagnesemia in head and neck cancer patients treated with cetuximab. Front Oncol.2016;14;196.
- ・ Enokida T et al. Combined salivary duct carcinoma and squamous cell carcinoma suspected of carcinoma ex pleomorphic adenoma. Pathol Int. 2016. 66: 460.

### 研修コースについては、次項をご参照ください。

📞 研修に関するお問い合わせ先

🏢 国立がん研究センター 東病院  
頭頸部内科

👤 科長：田原 信  
メールアドレス：matahara@east.ncc.go.jp

👤 医員：岡野 晋  
メールアドレス：sokano@east.ncc.go.jp

東病院頭頸部内科レジデントプログラム HP  
[https://www.ncc.go.jp/jp/nccce/clinic/head\\_neck\\_medical\\_oncology/resident/](https://www.ncc.go.jp/jp/nccce/clinic/head_neck_medical_oncology/resident/)

Facebook 東病院 教育・研修情報  
<https://ja-jp.facebook.com/nceasteducation/>